

アンコール遺跡群 たっぷりウォーキング 5 日間

2012 年 12 月 2 日 (日) ~ 12 月 6 日 (木)

Tour Conductor / k. yamazaki

1日目・12月2日(日)

午後、新千歳空港より KE(大韓航空)766 便にて仁川空港へ。成田空。港発着のお客様とシムリアップ行き KE687 便の搭乗ゲートで合流。シムリアップ空港到着は 22:15。ガイドのキムサンさん(呼びにくいので、キムサンと呼ぶことに)とミートし、そのままホテルへ。夜とはいえ気温が高くて、かなりムシ暑い。冬の日本との気温差に、皆さん、ちょっとビックリ。空港からシムリアップ市内へは車で 30 分ほどの距離。車中ではキムサンがいろいろ説明してくれました。

「市内の信号はできたばかり。ルールを知らないなので、みんな信号を無視します。交通事故が多いので歩くときは気を付けて下さい」「14 歳から免許がとれますが、だいたいオートバイは無免許で運転しています」など。確かにオートバイの量がすごく、しかも中央分離帯など関係ないような走り方。今にも衝突しそうです。

ホテルに到着後、明日の予定の説明をして解散・就寝。



↑今回連泊したダラ・レン・セイ・ホテル。シムリアップ市内のホテルはせいぜい3~4階。建物をアンコール・ワットより高くしてはいけないという法律があるとのこと

2日目・12月3日(月)

ホテルのレストランで朝食をとり、渡航の疲れが残る1日目は9時のゆっくりスタート。晴天なのは嬉しいのですが、陽射しと紫外線が強いので帽子とサンングラス、それに汗拭きハンカチ or タオルは必携です。

まずはチケット・チェックポイント(料金所)で3日間の遺跡見学フリーパスを購入。ポラロイドで全員顔写真を撮られますが、キムサンより「笑わないと写りませんよ」と言われて、思わずニンマリ。このパスを首にかけていれば、3日間中心遺跡のほとんどが自由に見学できます。

まずは**プリア・カン**へ。アンコールトムの北側に残るバイオン式の仏教寺院で、クメール王朝の最盛期を築いた大王ジャヤバルマン7世が父の菩提寺として建立したと言われています。

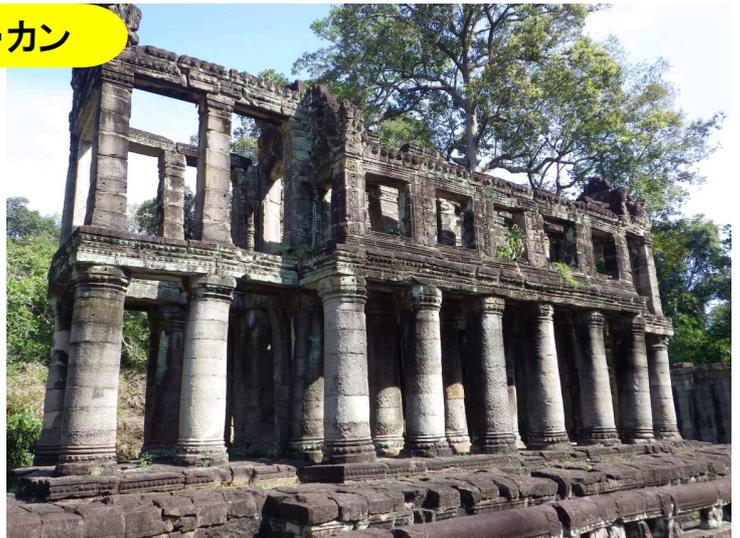


↑アンコール遺跡見学の3日間フリーパス。料金所にて顔写真を撮りその場で発行してくれる。写真は笑わないとNGらしい?

プリア・カン



↑蛇神の胴体を神々が綱引きする「乳海攪拌」神話が表現された欄干



↑1階は円柱、2階は角柱の不思議な様式を持つ経蔵(図書館)

次に訪れたのは**ニャック・ポアン**。2匹の大蛇が絡み合うユニークなデザインの祀堂が大池の中に建ち、治水信仰のシンボリック寺院と言われています。あいにく数ヶ月前の洪水の影響で、現在は奥まで入ることができず、遠くから見学。しばらく立ち入り制限は続き



↑遺跡までは湿地帯の中の木橋を歩いて。落ちたら大変！
→ニャック・ポアンの意味は「絡み合う蛇」。その名の通りの中央祀堂

ニャック・ポアン



そうとのことでした。

続いて**東メボン**へ。かつては水のあった東バライ(貯水池)の中央に建っていたとか。往時は均整のとれたピラミッド式寺院が水面に浮かび、荘厳な景観だったことがうかがえます。周壁の四隅に立つ象の石像が印象的です。

遺跡めぐりは意外と歩くので、ムシ暑い中では思ったより疲れます。昼食はシエムリアップ市内に戻り、涼しいレストランでゆっくり取ります。



東メボン



↑ 中央の主塔を中心にシンメトリックに小塔を配した美しい構造

↑ 2つの周壁の四隅に計8基の象が立つ。とてもリアルな造り



↑ 少々酸味の効いたエスニック風味たっぷりのスープ。サラダはご飯に添えて

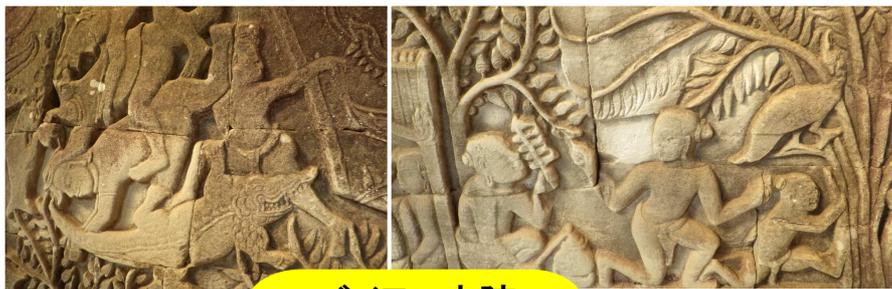


↑ 皆さんに好評だった牛肉のロックラック(右)

午後は今回のツアーのポイントでもある、遺跡修復専門家の解説付きでのアンコールトムの中心寺院・バイヨンの見学です。まずは**バイヨン・インフォメーションセンター**にてガイダンスを受けます。バイヨンの解説ビデオを見た後、研究員が日本語でアンコール王朝の歴史、修復活動の様子などを説明。その後、専用車でアンコールトムの**バイヨン**へ。今度は日本の遺跡修復チームJASA広報の吉川さんが同行して、日本チームが実際に修復を行っている現場で詳しく解説をしてくれました。多くの国がアンコール遺跡群の修復を行っているが、国や時代によって修復方法も異なり、日本は木造建築の国ならではの、時間をかけて建築当時の土台から修復する方法を行っているとか。回廊に描かれたレリーフや、バイヨンの建築の特徴などについても詳しく説明していただき、さすがは専門家、分かりやすく楽しかったと皆さんから大好評。修復にかける熱意も伝わってきました。

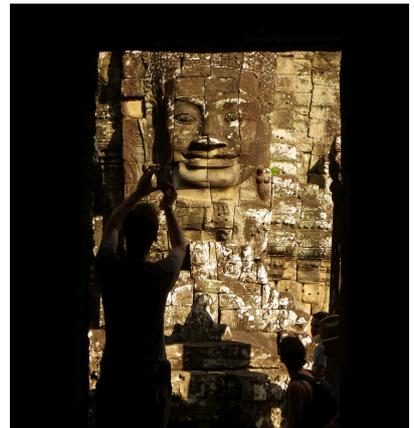


↑ レリーフの見どころを解説する日本遺跡修復チーム JASA の吉川さん



← 第一回廊の南壁にはチャンパ軍との戦いの様子や当時の生活風景を描いたレリーフが見られます。ワニに足をかまれているシーン(左)、串焼き調理中(右)など、細やかな描写が見事です

バイヨン寺院



↑ 創建した王ジャヤバルマン7世を模したとされる顔が全塔の四面を飾ります
← 南面から見上げると多数の塔がそそり立ち圧巻です

その後、王宮前広場まで歩き、**象のテラス**、**ライ王のテラス**を見学。この王宮東面に造られた長いテラス中央には王が謁見した**王のテラス**があります。正面には勝利の門へと続く一本の道。王はこのテラスの上から凱旋した兵隊を出迎え、市民を謁見したのでしょう。



↑上がって広大な王宮前広場を見渡すと、思わず王の気分になれる「王のテラス」(左)・象の鼻が柱のモチーフというユニークな意匠が見られる「象のテラス」(右)



↑バンテアイ・クディ「踊り子のテラス」の石柱を飾るアプサラのレリーフ

一旦、ホテルへ戻って休憩後、市内レストランでの夕食へ。今夜はカンボジアの伝統芸能**アプサラ・ダンス**を見ながらのビュッフェです。アプサラはクメール王朝では「天女」を指し、その踊りは神への祈りとして捧げられたとか。細かな指の動きには既婚・未婚など様々な意味があり、アンコール遺跡にも多くのレリーフが見られます。

3日目・12月4日(火)

午前中は、シェムリアップの北東約40kmにある**バンテアイ・スレイ**へ。車で約50分の距離にある美しい遺跡です。アンコール遺跡群の中には「バンテアイ」と名のつくものが幾つかありますが、これは「砦」という意味で、バンテアイ・スレイは「女の砦」を意味します。アンコールワットより早い10世紀の創建ですが、そうとは思えないほど繊細で緻密なレリーフがよく残されています。中でも北塔の壁に彫られた**デバター像**は、その美しさから「東洋のモナリザ」と呼ばれています。保護のため10mほど離れた第三回廊の外からしか見られませんが、柔和な表情や腰つき、細やかな装飾に暫し見入ってしまいました。また石壁には赤、白、緑、紫など多彩な色が見られますが、これは自然が作り出したものというから驚きです。

その後、遺跡中心部へ戻り、巨樹に侵食された姿が神秘的な**タ・プローム**、近年、日本の調査団によって多数の神像が発掘された**バンテアイ・クディ**、王の沐浴場だったという大池**スラ・スラン**、浮き彫りのヴィシュヌ神像が珍しい**プラサット・クラブアン**をめぐりました。タ・プロームでは、至るところで遺跡を絡めとるスポアン(ガジュマルの一種)が見られ、自然のパワーと埋もれゆく歴史の儚さを実感。



バンテアイ・スレイ

↑塔に壁に見られる多彩な色の層は岩質の違いなどによる自然の造形美



↑柱に彫られた緻密な模様。まるでヨーロッパの城の装飾のよう(左) 「東洋のモナリザ」の異名を持つデバター像(右)



↑巨樹が遺跡をおし潰し、神秘的な雰囲気漂わせるタ・プローム。数々の映画のロケ地にもなっています



↑「僧房の砦」という意味のバンテアイ・クディ。デバター像の彫られた柱が林立する「踊り子のテラス」は見ごたえがあります



↑東西約700m、南北約300mの大池スラ・スラン。王が沐浴する池だったといわれています

市内レストランで昼食をとり、午後はいよいよ**アンコール・ワット**へ。ほとんどのアンコール遺跡が東向きに建てられている中、アンコールワットは西向きに建てられています。そのため、午後の方が陽当たりの良い全景が見られます。三つの回廊に囲まれた壮大な伽藍を約3時間かけてじっくりめぐり、ヒンドゥー教の世界観が形となった神域を堪能しました。



アンコール・ワット

↑ 西側正面に続く長い参道を歩いて神域へ。奥まったところに中枢部を据えることで、その神秘性を際立たす効果をもたせているとか

↑ 第一回廊の壁面は古代インドの叙事詩、王の行軍の様子、クメール王朝の創生神話などのレリーフで埋め尽くされています。ガイドのキムサンの解説でじっくり鑑賞



↑ 第三回廊の壁面には多彩なデバターのレリーフが見られます。髪型、衣装、仕草がそれぞれに異なり、細やかな造形には脱帽です



↑ 第三回廊への石段はとても急斜。現在は手すりのある階段が整備されています



↑ 第二回廊から見上げた中央祀堂。宇宙の中心である神の住む山・須弥山を表現しているといえます。

4日目・12月5日(水)

カンボジア滞在最終日。この日はオプションとして早朝5時20分にホテル出発し、**アンコール・ワット日の出観賞**へ出かけました。コンディションはばっちり、6時過ぎ頃から空が白み始め、7時頃にアンコール・ワットの左側から昇る荘厳なご来光を拝むことが出来ました。春分・秋分の日には中央祀堂の真上から日が昇るとか。機会があれば見てみたいものです。



→ 朝焼けの空にシンメトリックで美しいアンコール・ワットのシルエットが浮かび上がります

ベンメリア



↑ 第一回廊～第三回廊、十字回廊、中央祀堂、経鞍などありましたが、ほとんど崩れた石の山と化し、遺跡発見当時のままの姿を見ることができます

散在し、そのなかからうじて神像や破風のレリーフが姿をとどめ、ちょっとした探検気分になりながらめぐることができます。ご参加の皆様からも、この遺跡が一番印象深かったという声を多く頂きました。

ホテルに戻って朝食をとった後、本日も専用車で郊外の遺跡へ。アンコール・ワットの東約40kmにある**ベンメリア**へ向かいました。車を走らせること約1時間。スタジオ・ジブリのアニメ「天空の城ラピュタ」のイメージになったというこの遺跡は、修復・整備され、多くの観光客で賑わうアンコール・ワットやアンコール・トムとは異なり、修復されずに崩れ行くままの姿で公開されています。アンコール・ワットをしのぐ規模だったといわれていますが、ほとんど原型を止めておらず、その全貌を想像するのは難しいところです。

鬱蒼とした森に埋もれて、崩壊した回廊や御堂が



↑ 崩れ落ちた石片は苔むしたまま放置されていますが、ところどころにレリーフを見つけることができます



↑ まるで大河のようなトンレサップ湖。湖畔には水上生活者の船(家)が並んでいます。首都プノンペンまで河川でつながっていて、水上交通の要所でもあります

シェムリアップ市内に戻って昼食をとり、午後は**トンレサップ湖クルーズ**です。トンレサップ湖は東南アジア最大の淡水湖で、雨季には乾季の約3倍の大きさまで面積が広がります。現在は乾季なので水面が低い状態。湖畔に建つ家々は高床式ですが、その足の高さにはビックリ。約1時間30分のクルーズでは、船を家にしてしている水上生活の様子が見られます。



水上に浮かぶ学校まであり、何とバスケットボールコートもありました。

←高床を支える足は雨季の湖面に合わせてとても長く、水流で壊れないか心配してしまうほど細くてビックリ

ホテルに戻り、1時間ほど休憩。シャワーでさっぱりしたり荷物をパッキングしたりしてチェック・アウト。夕食までの時間は**オールド・マーケット**で自由散策です。生鮮食品類から衣類、雑貨まで、お土産を選ぶには事欠きません。庶民の台所としても賑わっています。

最後の晚餐は、オールド・マーケットにある「カンボジア風鍋」のお店へ。香辛料を聞かされたスープが独特の味です。卵をからめた牛肉や野菜などを鍋に入れ、チリ味の豆味噌ダレなど、辛さは好みで調節して。ちょっとしたすき焼き風。

夕食後は観光客で賑わう**ナイト・マーケット**を1時間ほど散策してシェムリアップ空港へ。予定していた23:15分発のKE688便が大幅に遅れるということで、急遽1本前の便に振り替えて、無事に仁川空港で乗り換え。度の余韻を旨に成田空港、新千歳空港とそれぞれ帰途につきました。

→オールド・マーケットにカンボジア・ベトナム料理の店「スープ・ドラゴン」にてカンボジア最後の夕食を味わいました

